

## 安全データシート

作成日 2007年 3月 13日

改訂日 2017年 5月 25日

## 1. 製品及び会社情報

## 対象物の名称

製品名	K ビルダー
英名	K-Builder 7-2-21
社内整理番号	201705D

## 提供者の情報

## 製造元

会社名	Growth Products, Ltd.
住所	80 Lafayette Avenue White Plains, NY 10603
電話番号	+1-800-648-7626

## 輸入元

会社名	東洋グリーン株式会社
住所	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-33-8
電話番号	03-3249-7731
担当	毒物劇物管理責任者 丸山

## 用途

本製品は、主に芝生地に用いられる葉面散布用肥料である。

## 2. 危険有害性の要約

ピクトグラム	なし
注意喚起語	なし
危険有害性	眼および皮膚に長期接触・反復接触により刺激のおそれ

## GHSによる危険性・有害性の分類

## ① 危険性 (16 分類)

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分外
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	区分外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	区分外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	区分外
金属腐食性物質	区分外

## ② 有害性 (10 分類)

急性毒性：経口	区分外
急性毒性：経皮	分類できない
急性毒性：吸入 (気体)	分類できない

急性毒性：吸入（蒸気）	分類できない
急性毒性：吸入（粉塵）	分類できない
急性毒性：吸入（ミスト）	区分外
皮膚腐食性・刺激性	区分 3 H316 軽度の皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2B H320 眼刺激のおそれ
呼吸器感作性と皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	区分外
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	区分外
吸引力呼吸器有害性	区分外
③ 環境に対する有害性（2 分類）	
水生環境急性有害性（急性）	区分外
水生環境急性有害性（長期）	区分外

### 3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物	
一般名	分子式	CAS 番号
尿素	CH <sub>4</sub> N <sub>2</sub> O	57-13-6
炭酸カリウム	CK <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	584-08-7
1,1'-メチレン二尿素	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> N <sub>4</sub> O <sub>2</sub>	13547-17-6
ポリリン酸アンモニウム	(NH <sub>4</sub> PO <sub>3</sub> ) <sub>n</sub>	6833-79-9

### 4. 応急措置

吸入した場合	通常の使用条件下では有害ではない。霧状になったものを吸い込んだ場合、鼻、喉、肺に刺激がある可能性がある。症状のある場合には新鮮な空気のある場所に移し安静に努める。症状が続く場合には医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	とくに影響はなく、有害ではない。刺激がある場合には水で洗浄する。症状が続く場合には医師の診断を受ける。
目に入った場合	清浄な流水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合、眼科医の治療を受ける。
飲み込んだ場合	水で口をよくすすぎ、医師の手当てを受ける。咽頭などを刺激して嘔吐させてはならない。

### 5. 火災時の措置

本製品は不燃性である	
消火剤	特に限定はない。周辺の火災状況に応じて適切な消火剤を用いる。
使ってはならない消火剤	棒状水を用いない。（周辺への飛散）
火災時の特定危険有害性	一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物が発生する可能性がある。
特定の消火方法	漏出した物質や消火剤等が河川等に排出されないように配慮する。消火活動は出来るだけ風上から行う。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	
環境に対する注意事項	河川、湖沼、地下水等に流入しないようにする。 ウエス、布などに吸着させ回収し、法令に従い処理する。

除去方法 法令に従い処理する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

安全取扱注意事項	吸い込んだり、眼や皮膚、衣服に触れないよう十分注意する。 保護衣、保護靴、保護手袋、保護眼鏡等を着用する。 容器の再利用は避ける。 作業上での飲食、喫煙を避ける。
適切な保管条件	0℃～38℃で、換気の良い室内の冷暗所に、容器を密閉し、凍結を避け保管する。凍結しても有害ではないが、使用前にゆっくりと攪拌する。使用は先入れ先出しを原則とする。保管期限は21℃で2年以内とする。保管には必ず元の容器を用いる。子供の手の届かない場所に保管する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	
日本産業衛生学会	設定されていない
厚生労働省告示	設定されていない
保護具	
呼吸器の保護具	通常は不要
手の保護具	保護手袋
眼の保護具	保護眼鏡（ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具	大量に扱う場合には長袖保護衣、保護手袋、保護眼鏡を着用。
適切な衛生対策	取り扱い後は手を良く洗う。汚染した衣服は他のものと別に洗濯する。
換気設備	通常は不要。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	
形状	液体
色	明緑色
臭い	わずかな酸性臭
pH	11～12 (21℃)
物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲	
沸点	約 100℃
引火点	不燃性
凝固点	0℃未満
爆発特性	
爆発限界	上限：設定されていない 下限：設定されていない
比重	1.42g/cm <sup>3</sup> (21℃)
粘度	5～15cps (21℃)
溶解性	
水に対する溶解性	完全に混合可能
溶媒に対する溶解性	データなし
オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
解離定数	データなし
蒸発速度	水と同じ

## 10. 安定性及び反応性

安定性	通常の使用条件で安定
避けるべき条件	強酸との接触を避ける

危険有害分解生成物	一酸化炭素 (CO)、二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )、アンモニア (NH <sub>3</sub> )、粒子状あるいはその他の有機物
他の物質との重合	不明であるが生じないと推定される。

### 1 1. 有害性情報

急性毒性推定値 (ATE)	製剤 (経口)	データなし
	製剤 (経皮)	データなし
急性毒性	経口毒性	毒性、病原性なし
	吸入毒性	データなし
局所効果	眼刺激性	目に軽度の刺激のおそれ。 ウサギへの 0.1ml 点眼で角膜、虹彩に影響なし H320
	皮膚刺激性	反復暴露・長期曝露で軽度の刺激のおそれ。 7日以内に回復 H316
感作性		データなし
慢性毒性 (最大無作用量)		データなし
発ガン性		データなし
変異原性		データなし
催奇形性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性	単回暴露	データなし (目の刺激のおそれあり)
特定標的臓器毒性	反復暴露	データなし (皮膚刺激のおそれあり)

### 1 2. 環境影響情報

毒性	本製品は有害に分類されない
移動性	土壌微生物により生分解される
残留性/分解性	土壌微生物により生分解される
生態蓄積性：n-オクタノール/水分配係数	データなし
生態毒性	データなし

### 1 3. 廃棄上の注意

廃棄の方法	「7. 取扱い及び保管上の注意」の項を参照
残余廃棄物	廃棄はなるべく避けるか最小限に留める。 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体に委託して処理する。
汚染容器及び包装	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

### 1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	該当なし
国連番号	該当なし
国内規制	該当なし
輸送の特定の安全対策及び条件	「漏出時の措置」の項を参照 「取扱いおよび保管上の注意」の項を参照 梱包毎に漏れのないことを確認し、転倒、落下、摩擦等で包装が破損しないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行い、有蓋車又はシート等を掛けて運搬する。容器の破損、漏れがないことを確かめる。水濡れを避ける。

---

**15. 適用法令**

---

肥料取締法	該当する
労働安全衛生法	該当しない
毒物および劇物取締法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法	指定化学物質に該当しない
航空法規則	該当しない
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない

---

**16. その他の情報**

---

製品安全データシートは、化学製品を安全に取り扱うための参考資料として、当該化学製品を取り扱う事業者提供されるものであり、安全を保障するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報および自社情報に基づいて作成しておりますが、本品（当該製品）に関するすべての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取り扱う事業者は、個々の取扱いの実情に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この製品安全データシートを活用されることをお願い致します。

以上

MSDS 制作にあたって (メモ)  
2017-5 月  
秋篠

・黄色にしてあるものは、未確定部分。黒字にしてある部分は確定情報。

#### LEL/UEL

可燃性ガスの爆発範囲 空気と混合した可燃性ガスが着火によって爆発を起こす最低濃度を爆発下限界 (LEL : Lower Explosion Limit) 、最高濃度を爆発上限界 (UEL : Upper Explosion Limit) Permissible PEL exposure limits PEL 許容暴露限界  
TLV Threshold limit value TLV 限界値  
NOIBN NOI 他に決めがない限り  
略語 NOIBN(Shipping) "Not Otherwise Indexed by Name"

航空法第 86 条第 1 項の国土交通省令で定める物件

<https://www.post.japanpost.jp/question/24.pdf>

MKS と cgs 系の記号の区別が紛らわしいのでご注意ください。

[MKS(m,kg,s)系の場合]

圧力の単位 :  $\text{N}/(\text{m}^2) = \text{Pa}$  (パスカル)

粘度 (次元は 圧力×時間) の単位 :  $\text{Pa} \cdot \text{s}$  (パスカル秒)

[cgs(cm,g,s)系の場合]

圧力の単位 :  $\text{dyn}/(\text{cm}^2)$

粘度の単位 :  $\text{dyn} \cdot \text{s}/(\text{cm}^2) = \text{P}$  (ポアズ)

ここで、 $\text{m}=(10^2)\text{cm}$ 、 $\text{N}=(10^5)\text{dyn}$  であることを使うと、  
 $\text{P} = 0.1 \text{ Pa} \cdot \text{s}$

したがって、

$\text{cP}$  (センチポアズ) =  $0.01 \text{ P} = 0.001 \text{ Pa} \cdot \text{s} = \text{mPa} \cdot \text{s}$

cps はセンチポアズの別表記法